

横浜みどりアップ計画市民推進会議 第58回広報・見える化部会 会議録	
日 時	令和7年4月22日（火）10時から12時まで
開 催 場 所	市庁舎18階共用会議室なみき19
出 席 者	大竹部会長、金井委員、河原委員、北原委員、酒井委員、飛田委員、望月委員（五十音順）
欠 席 者	なし
開 催 形 態	公開（傍聴なし）
議 題	1 市民目線での情報提供のあり方について 2 その他
議 事	<p>（事務局） 本日は、委員の皆様には、ご多用のところお集まりいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>ただいまから、「横浜みどりアップ計画市民推進会議 第58回広報・見える化部会」を開催いたします。</p> <p>まず、本日の会議について報告いたします。本会議は、横浜みどりアップ計画市民推進会議運営要綱第7条第3項の規定により、半数以上の出席が会議の成立要件となっておりますが、本日、委員定数7名のところを7名全員が出席されているため、会議が成立することを報告いたします。また、本会議は、同要綱第8条により公開となり、会議室内に傍聴席と記者席を設けています。また、本日の会議録も公開となりますので、会議録は公開前に各委員にご確認をお願いします。なお、会議録に発言者氏名を記載すること、本会議中に撮影した写真をホームページおよび広報誌等へ掲載することを併せてご了承願います。</p> <p>次に、お手元の配付資料について確認いたします。資料は、「次第」、「資料1 市民目線での情報提供のあり方について」の2点と、ファイルには、過去に発行した市民推進会議の報告書などをとじています。参考としてご活用ください。</p> <p>また、本日は事務局として、戦略企画課が出席しています。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>事務局からは以上です。それでは、今後の議事進行につきましては、大竹部会長にお願い申し上げます。大竹部会長、よろしくお願いいたします。</p> <p>（大竹部会長） 今回が2回目です。今日は議論することがたくさんあるので、時間をコントロールしながら進めたいと思います。横浜愛あふれる皆さんからの素晴らしい意見をぜひお願いします。</p> <p>それでは、次第の1番に移ります。「市民目線での情報提供のあり方について」です。事務局から説明をお願いします。</p> <p>（事務局説明）</p> <p>（大竹部会長） 本日は、4つの検討項目があります。皆さんから順番に意見や質問をおうかがいしていきたいと思います。</p> <p>ではまず、事務局が前回の議論をもとに提案した企画案について、ご意見等がありましたらお願いします。</p>

	<p>(北原委員) 前回の議論をもとに、非常に練り上げてくれたと思います。我々のやるべきことや情報を流通させる方法についても、具体的な事業としてイメージできるようになりました。</p> <p>情報を流すときに大事なものは、欲しいアクションは何かを常に意識することです。子育て世代のグラフからも、今までやっていなかったことをやりたいということで、「はじめてのみどりアップ」というのは、良いキャッチコピーです。</p> <p>その体験がどのようにしてできるのか、具体的なアクションは行動変容だと思います。もう一方で、意識変容があります。みどりアップを知ったり、理解していくことについて、どのような形で情報を発信した結果、市民の意識変容に結び付いていったのかを、評価する方法も検討してもらえたらと思います。</p> <p>情報流通期間が非常に長くあります。最後にチラシが出来上がってくるのが3月です。それ以降、市民がアクセスしたときの情報が古くならないように、記事の構成案で検討してもらえればいいです。</p> <p>特に地産地消というのは、旬のものにすごく影響されます。旬のものを取材したとしても、長く使われるようなベーシックな情報と、そのときのアクションでできるものと、幾つかの出口設計があるとよいのかなと思いました。</p> <p>今後より具体的な議論ができるといいかなと思いました。</p> <p>(飛田委員) 森の楽校に参加している大学は、公募で参加しているのですか。それとも、こちらから話をしているのですか。</p> <p>(事務局) 市内の大学であればどこでも参加できます。参加を希望する大学側から申請していただいています。</p> <p>(飛田委員) ワークショップに参加してもらったところで、YOKOHAMA未来デザイン部が関わることについて、どこまで具体的に話が進んでいるのでしょうか。森の楽校の取材をした後でワークショップの準備をするときに、誰がそれをするのかまで詰めてあるのでしょうか。</p> <p>(事務局) YOKOHAMA未来デザイン部も、今ある市のツールとして挙げているもので、こういう形でつなげられると大学生から高校生まで広く共有できるかと思っています。</p> <p>まだ具体的などころまでは詰めていません。森の楽校についても所管課とは「こういう形でできたらいい」という話していますが、具体的に大学と調整しているわけではありません。皆さんに議論していただき、「こういう方向性で」ということであれば詰めていきたいと思っています。</p> <p>(飛田委員) 森でのイベント体験等も発信していくということで、色々な案が挙がっています。私は市民の森愛護会に所属しているので、市民の森愛護会の年間スケジュールはわかります。今の段階では、「来年度ならできるかもしれない」と答えるところが多いと思います。市民の森愛護会など、受入側とのスケジュール調整などはどのように考えていますか。</p> <p>(事務局) この方向性でいいということであれば、テーマを決めて、今年度はそのテーマに沿って取材可能なところの候補を事務局で調整したいと思います。次回の部会では、取材先候補を</p>
--	---

	<p>提示する予定です。市民の森愛護会が難しいようでしたら、また来年度に向けてというところがあると思います。無理やり「取材したいから調整させてください」というわけでありません。可能なところに取材に行っていただきたいと考えています。</p>
(飛田委員)	<p>来年度についてはまだ決まってないのですか。</p>
(事務局)	<p>今年度は初めてなので、ある程度は取材先を事務局で調整させていただきます。皆さんが慣れてきたら取材回数を増やしたり、テーマの合う取材先に直接調整して取材をしていただく場合もあるかもしれません。そのあたりは今後、柔軟に対応させていただきたいと考えています。</p>
(金井委員)	<p>森の楽校に参加する大学は、去年は4大学でした。最初からそうだったのか、それとも、昔はもっとあって減ってしまったのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>5校程度だったと思います。コロナの影響もあったと聞いています。やり方についても、大学によって、ゼミでやっていたり、大学の先生主体で行っていたり、取り組み方は様々ようです。</p>
(金井委員)	<p>横浜市内にキャンパスが31か所あると聞いたことがあります。参加大学の割合が少ないのではないのでしょうか。あまり余計なことをする必要はないかもしれませんが、市からもう少し大学に働きかけをしながら、参加校を増やしたらよいのではと思います。私の想像ですが、妙に深掘りしすぎてよそ者が入りづらいサークルになっているのではないですか。</p>
(事務局)	<p>そういうことはないです。大学ごとの取組で、大学での連合のようなものではないです。森の楽校と合致するものが大学にあれば、この事業をうまく使っている形です。</p>
(金井委員)	<p>今風のテーマなので、アプローチ方法を工夫したら、もう少し参加する大学も増えるのではないのでしょうか。ただ募集しているだけでは、盛り上がりには欠けているのではないのでしょうか。せっかくやるのなら、もう少し盛り上げたいと思います。企画のコンセプト自体はものすごくいいと思います。</p>
(事務局)	<p>市でも広報していますが、ぜひ、こういった広報・見える化部会でも森の楽校について取材して発信していただけたらと思います。親子向けに発信するものは色々ありますが、若者向けに発信するものは少ないです。この広報・見える化部会の取材がそのきっかけになればいいと思います。</p>
(酒井委員)	<p>YOKOHAMA未来デザイン部は、こういった集まりなのですか。高校生の自主的な集まりですか。月に1回といった定例会なのか、1週間といったように集まる期間があるのでしょうか。</p> <p>森の楽校で、大学でのワークショップの例がありました。こういった場合では、やはり研究室の先生主体で、学生は休日返上で手伝わされているのではないか、という感覚があります。市が取材するとなると、学生のモチベーションも上がり、他の研究室の先生方も「あれ、何かやっているな」とな</p>

	<p>ります。市としても前向き、積極的に働きかけるといいかなと思いました。</p>
(事務局)	<p>YOKOHAMA未来デザイン部は、SDGs デザインセンターが、横浜市内の高校生を対象に公募しているものです。その年によって人数が変わります。色々な高校から応募が来るときもありますが、昨年は1つの高校からまとまって応募されているようでした。基本的には1年単位でカリキュラムが組まれています。年間のスケジュールについては詳しくは承知していませんが、SDGs をテーマにみんなで集まって議論したり、視察に行ったりしています。1年生のときに手を挙げて、3年生で手を挙げること自体はできるので、一人1回だけというわけではないと思います。2点目のところは、おそらく、大学によって学生のモチベーションも違うのかなと思います。先生が熱い思いを持ってやっていただいているところもありますし、ある程度学生主体でやっているところもあります。みどりアップ計画の取組のなかで大学生が主体的に取り組む事業は多くありません。そういう意味では、この森の楽校は貴重な事業であると思っています。ぜひ、取材をしていただき、横に広がっていくと良いのではと思っています。</p>
(河原委員)	<p>私は大学と一緒にマルシェをしたりしています。みどりアップ計画の取組のなかでも、森の楽校以外の取組に参加している大学が何校かあるのかなと思います。それから、市の事業ではないかもしれませんが、横浜市の農家に土日に手伝いに来ていて、その中でうちのマルシェにも手伝いに来る学生が非常に多いです。そういう学生たちと一緒に何かできたらと思います。</p> <p>北仲マルシェを実際に運営している人たちも大学生と聞いています。学生たちは、そこで写真を上手に撮ったりしています。そういう人たちとも一緒にやれるともっと発信力が上がると思います。</p>
(事務局)	<p>地産地消には多くの大学が取り組んでいます。みどりアップ計画の実績には載ってこないかもしれませんが、実際は関わっていることもあるかと思います。</p> <p>今回は、森の楽校をフィーチャーしましたが、農や緑化の分野でのテーマもあり得ると思います。事務局でも引き続きアンテナを広げながら探していきたいと思っています。</p>
(河原委員)	<p>逆に農をやっている人たちに、「こういうことを大学でやっているけれど、一緒にやったらどうか」と誘うと、倍に広がるのではないかと思います。</p>
(北原委員)	<p>若者同士でSNS等により認知を広げていくのは大変難しいのではないかと思います。しかも、それを追うことも難しいです。大学生や高校生のSNSは基本的に鍵付きのアカウントです。効果検証も非常に厳しいかと思います。</p> <p>どちらかという、メディアに出てもらうことにより、インフルエンサー的、モデル的に「若者が参加し、活躍しています」というようなアピールのような形での若者の露出がいいのではないかと思います。そこから自主的に何か広がっていくことは難しいような気がします。「そういう効果を狙う」と言ってしまうと、目標達成できない可能性があります。学生</p>

	<p>はメディアリテラシーが非常に高くなっているのです、プライベートな中の温存された空気感というのも大きいかなと思います。その辺りのすり合わせはしておけるといいかなと思いました。</p>
(大竹部会長)	<p>そのほか、よろしいでしょうか。ありがとうございました。それでは「企画案について」は以上といたします。続いて、私たち委員が役割を担って活動するとの話がありました。具体的には、若者世代向けは2人、子育て世代向けは4人で進めていくとのこと。それでは、若者向けに関わりたい人はいますか。</p>
	<p>(挙手あり)</p>
(大竹部会長)	<p>では、金井委員と酒井委員をお願いします。子育て世代向けは、残りの市民委員4名で担当します。</p>
(事務局)	<p>担当は今決めた役割で進めていただきますが、取材は、ご都合が合えば担当以外の内容にもご参加いただけたらと思います。</p>
(大竹部会長)	<p>よろしいでしょうか。それでは、「役割分担について」は以上とします。</p> <p>続いて、子育て世代の情報提供の取材テーマについて、すり合わせていきたいと思います。子育て向け取材の案として、2つにしぼりたいと思います。</p>
(飛田委員)	<p>2つにしぼったものを来年度につながるように構成していくのでしょうか。単発にするのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>どちらでもいいと思っています。取材してみて関心があればそのまま継続もあるでしょうし、1個1個違う分野を取材して広報していくやり方もあると思います。今回全て決まるのではなく、やりながら変えていってもいいと思いますので、まずは皆さんがワクワクするところに取材に行ってくださいと思っています。</p>
(大竹部会長)	<p>みどりアップ計画の柱が「森」と「農」と「緑化」となっているので、取材テーマが柱の1つに集中してしまうのではなく、森と農、農と緑化、緑化と森のような形になると思います。また、北原委員から、「行動変容の意味合いをどの程度まで求めているのか」という話がありました。もしかしたらそれにもよってくるのかなと思います。意識変容の効果をどのように図るのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>どこまで追跡し、評価するか、テーマによっても違うと思います。事務局としてはまだ詰め切れていませんが、このテーマであれば、知った人の行動や意識が実際どういう形で変わったかを調査することは考えていけないと思います。</p>
(北原委員)	<p>情報の空白地帯はどこなのかという視点もあると思います。収穫体験や農畜産物の分野は、はまふうどナビとか、はまふうどコンシェルジュの人たちがSNSなどでたくさん発信してくれているようなテーマかなと思います。「バラを見に行っ</p>

	<p>てみよう」といったものも他でも出されている分野かなと思います。どこを強めていきたいのかということもあります。GREEN×EXPO 2027の開催がせまっており、その気運醸成も大事なところかなと思います。一番足りなくて必要なものはどこなのかな調べたいです。</p>
(飛田委員)	<p>市民の森愛護会は、とにかく高齢化が著しいです。アップデートしてもらえる情報が子育て世代に届くと有り難いです。</p>
(事務局)	<p>確かに農の関係は色々な媒体で発信しています。ただし、そこがどうつながって地産地消のものを買っていたいたり、収穫体験に参加していただいているのかまでは追いついてないのかなと思います。「ここが足りないから重点的に」というような確かな情報は今はないと思います。自身の身近なところで何か課題感があれば、そういったところからテーマを決めていただくというのもあると思います。</p>
(飛田委員)	<p>もう20年、春夏秋冬に1回ずつ、新治市民の森では近隣の皆さんに森林整備体験をしてもらっています。今年は趣向を変えて、「竹林整備」という名のタケノコ掘りをしました。発想を変えて、「みんなに掘ってもらえばいいではないか」ということでやりました。家族の方がたくさん来て、「作業に参加してくれたので持って行っていいですよ」と言って、盛り上がりました。竹林では、収穫体験と森のイベントができます。タケノコ掘りが楽になるし、そういう発想でみんな一度にやっけてしまいます。そういう例を取材するのもいいと思います。</p> <p>ただ、今は、タケノコ掘りは終わってしまっています。季節物なのでその時にしかできません。12月ぐらいに話が来れば、「取材がある」ということで盛り上げることもできます。今年となると考えてしまいます。</p>
(河原委員)	<p>子育て世代に「森を歩きます」と言って、集まるかという懸念があります。私も全部単発ではなくて、イベントに参加したり、歩いて採って作って食べて終わりというようなものがあるかなと思います。ただ持って帰るだけでは、これをどうするか分からない人たちが非常に多いです。タケノコも「茹でる必要があるけど、こんなに大きいから」と思っているからできないので、その場で「全部むいて切って茹でればできる」と伝えたら、「ああ、何だ」と思って直売所で買うかなと思います。そこまで教えられるところがあると、収穫や農畜産物の購買について、子育て世代の方の見方が変わるのかなと思います。</p> <p>栗も、むいてここにあつたら食べるけれど、そのままでは駄目です。みんなで採ってむきながら御飯を炊くと、「こう食べるんだね」というのが分かります。親世代もやらないことが多いので、そういうことができるのかなと思います。歩いて収穫して持って帰ったり、苗を植えて持って帰るように組み合わせたい体験にすれば、子育て世代の方に届くのかなと思います。</p>
(飛田委員)	<p>参加した家族の中に、東京から来た方がけっこういました。市民の森愛護会主導で横浜のためにとやっているなかで、観光客状態でとても複雑です。コミュニティに貢献する意味で、横浜の皆さんにというのは納得できますが、千葉や東京から来て「タケノコが食べられた。ラッキー」と言って帰られて</p>

	<p>しまうと、どうなのだろうかと思います。情報をどう発信するか調整しないと、観光客相手の観光農園を無料でやることになってしまいます。</p>
(事務局)	<p>市民推進会議なので、広報の仕方は、市とは位置付けが少し違っていいように思います。ただ参加しておしまいではなく、地権者の思いや、地産地消の要素を載せてもいいと思います。市民推進会議だからこそできるやり方もあると思います。どういう構成にしていくかは皆さんで議論していただきたいと思います。</p>
(北原委員)	<p>やはりみどりアップ計画ありきの広報なので、単なるイベントのレポートをすればいいという話ではありません。どういう制度があり、みどり税がどう使われて、どうしてこのみどりが守られているのかに行き着かない限りは、イベントの取材だけでも何の意味もありません。森のイベントが行われて、愛護会や地権者の方がいて、行政がそれをサポートしているという一連の流れが見られるネタをきちんと選び、取材をしていくときにもその視点は忘れてはいけないところです。チェックポイントは何か、誰に何を聞くべきなのかを設計した上で、そういう取材ができる場所が選ばれるべきだと思います。</p>
(金井委員)	<p>このグループだけで自己完結的にやろうとするとかなり限界があると思います。イベントをするにしても、告知の仕方にしても、他局などに協力してもらえる可能性はあるのですか。</p>
(事務局)	<p>関連する事業で連携することは可能だとは思いますが。広報・見える化部会の広報も、当局だけで完結するわけではなく、他局が持っている媒体もうまく活用しながら、なるべく広げられるようにはしていきたいです。</p>
(飛田委員)	<p>市民の森愛護会が活動している場所では、取材の調整先も多く、時間がかかると思うので、そのあたりは考慮してください。</p> <p>逆に、市民の森愛護会がPRしたいので、「是非取材に来てほしい」というところもあると思います。「みどりアップ計画で家族向けのイベントを取材したいと考えています。取材してほしいところはありませんか」と、全体に投げかけてしまうことも、1つの選択肢だと思います。こちらから「行きたい」と言っても、本音では、実は入ってほしくないという人もいると思います。</p>
(事務局)	<p>そのあたりに関しても、取材先は、関係部署と調整をしながら、地権者の方や活動している団体にご迷惑をおかけしない場所を選定していきたいと考えています。</p> <p>今年度に関しては、先ほど「取材2回と調査部会1回」という話をしました。今回、メンバーの皆様が新しくなって初めての年なので、取材回数をしぼった形で、ある程度調整させていただきながら進めてさせていただければと考えています。その上で、来年度以降、皆さんが取材に慣れて要領が分かってきた段階で、今、ご提案いただいた方法なども含めて関係部署と調整させていただきながら進めさせていただきたいと思います。</p>

	<p>(北原委員) テーマを設定するとしたら、ポイントとして市民参画やみどりアップ計画の推進が重要な要素だと思います。例えば市民の森愛護会の関係で、何らかのイベントに参加して、背景にあるようなみどりアップ計画や制度を知っていただき意識変容につなげるなどが良いと思います。個人的には、個人の行動変容とか、具体的なアクションにつながりやすいのは人生記念樹かなと思っています。</p> <p>最近、SNSでも私の友人が、「人生記念樹で心がほっこりしています」というような投稿をしていました。個人でアクションしやすいことでもあり、生産者が横浜の農家だったりするような背景も伝えられると思います。家にひと鉢によって、ある意味、きちんと土がある環境で、地球温暖化対策にもつながっていくような社会的要素も入れていくと面白いのではないかと思います。</p> <p>(大竹部会長) 森にしても農にしても緑化にしても、子育て世代の方に記事を読んでもらって、「自分も行ってみたい」「参加してみたい」と思えるようにすることだとすると、「子どもにこんないいことがある」「こんなことは知らなかったから、もっと知りたい」というところからどんな気づきを与えるかがすごく重要です。楽しい要素を打ち出しながら、実はそれを守っている人がいたとか、裏にあるストーリーの組み立て方がとても大事なのではないかと思います。</p> <p>私は個人的には、どれもすごく大事なことだと思います。みどりアップ計画の事業費を見ても、森はもう絶対入れないといけないのではないかと思います。</p> <p>タケノコはすごく分かりやすい例です。やはりタケの伐採は大変だと、私も色々な人から聞いています。なぜタケが増えたのかといったら、人間が自分たちの生活を豊かにするためです。タケはすぐ伸びるし、道具としても万能です。</p> <p>今、資本経済で、みんな里山の暮らしをやめて便利な暮らしになってしまいました。何かもう少し、道具としてタケが使えることを伝えたらと思います。これを切り続けることが私たちの生活や森の生活を守ることになり、とても大事です。</p> <p>タケで遊んだり、竹灯籠も面白いと思います。器を作るのも面白いと思います。私も子どもに、タケを切る体験をさせました。ノコギリを使うこと自体も最近減っています。昔の暮らしを改めて感じたり、そこで思いもしなかったことが得られると、それに感動して「関わりたい」「守りたい」となるような気がしています。意識変容や行動変容ならそこで取材をしたほうがいいのかなと思います。緑化にするか農にするかはどちらかなと思います。農でも緑化でも、テーマの裏に何を見せるかがすごく大事です。</p> <p>(河原委員) 子どもに「歩いてみよう」と言うだけでは、それほどの変化はないと思います。子どもは自分で歩きたいし、遊びたいのです。それで十分楽しいのです。それが記事になるでしょうか。</p> <p>(大竹部会長) それであれば、例えば「森で遊ぼう」という感じで、秋の森の楽しみ方とか、「森で不思議発見」とか、色々あります。それも見せ方かなと思います。</p> <p>(飛田委員) 「自然観察をしながらみんなでまったり歩きましょう」と</p>
--	---

	<p>いうのは大人がすることです。子どもは「トンボ見つけたー」と大騒ぎするようなイベントです。「歩いてみよう」ではなく「森のイベントに参加してみよう」になるのではないかと思います。</p>
(大竹部会長)	<p>テーマとしてはそちらのほうが、よりアクションに結び付いたり、森に親しんでもらうというところで行くと、イベントを取材してどう見せるかというのは今後検討する感じでしょうか。</p> <p>農と緑化はどうでしょうか。私も記念樹を持っていて、すごくいいです。子どもが生まれたときに、モッコウバラを2ついただきました。</p>
(河原委員)	<p>農は既に発信量が多くて、一定の効果はあるような気がします。みどりはもう少し広がってほしいです。「みどり税のみどりは何か」と、みんなに言われます。横浜の野菜はみんな発信していてイメージがわきますが、「みどりとは何か」と言われることが非常に多いです。人生記念樹があったり、まちのみどりも含めて、みどり税のみどりだと言うのが有効なのかなと思います。</p>
(望月委員)	<p>みどり税は、森だけではありません。森のみどりも農地のみどりもあります。いわゆる記念樹や公園のみどりもあります。そういうものを全部包括して「みどり」というスタンスです。一般の人にはなかなか説明する機会がありません。何らかの形で伝えることが大事です。</p>
(河原委員)	<p>これから子育て世代が一番長くみどり税を払っていくと思います。花が咲く度に思い出してもらいたいです。</p>
(望月委員)	<p>芝生のみどりもみどり税です。幼稚園等の園庭を芝生化するときにみどり税を使っています。そういう意味では、もっと広い概念を頭に入れて「みどり税」と定義しています。説明して回っているのですが、限られています。「そのみどりは森だけではない。芝生のみどりも木のみどりもある」と、是非言ってもらいたいです。</p> <p>過去に人生記念樹は、1回も取り上げたことはありません。ずっと続けている取組で、自宅に植えて記念樹として大事に育てている人がたくさんいるのですが。もし今回それを取り上げるのなら、とてもいいことです。</p>
(大竹部会長)	<p>今の色々な話を聞いていると、今年取り組むのは、森のイベントに参加して、森をテーマにしたものと、人生記念樹をテーマにして、そこから更にみどり全体の話や農家の話まで広げていったら面白いだろうという、その2つかなという感じがしましたが、どうですか。</p> <p>(拍手あり)</p>
(大竹部会長)	<p>では、全員一致ということで、今年の取材項目はこの2つにさせてもらいたいです。</p> <p>続いて、チラシのサイズや掲載内容のイメージについて、ご意見をうかがっていきたいと思います。</p>
(北原委員)	<p>まず配布か配架かが気になりました。公共施設のラックに</p>

	<p>置くのであればA 4がいいかと思います。マルシェをしている人がお客さんに渡すことになると、A 4は少し大きいので、店頭に置きづらいところもあるかと思います。A 5やポストカードサイズだと、比較的渡しやすいかなとは思いますが、どういうところで渡すのかが大きいと思います。</p> <p>(事務局) 今、考えているのは、配架というよりも配布で、みどりアップに関係するようなイベントで手渡したりすることを想定しています。そこに情報を詰め込むというよりは、今後作成するウェブページにとんでもらうきっかけになればと思います。</p> <p>(河原委員) 私もポストカードサイズのほうがいいです。A 5やA 4だと折れてしまったりして、無駄になることが多いです。ポストカードだと、もらった人も捨てづらい固さなので、バッグに入れてくれる率が高いかなと思います。あまり細かいものは絶対読みません。タイトルと分かりやすい写真と、二次元コードが付いているぐらいで、先ほどの「みどりって何か知ってる?」とか、何か知りたくなるようなものの方がいいかなと思います。</p> <p>(北原委員) 何よりもデザインがよいことが大事です。何を伝えたいかももちろんですが、情報を詰め込むと、読み手は読みづらくなります。表はキャッチーなデザインで裏に情報を入れるなど、デザイン性を重視すればいいです。</p> <p>(河原委員) 全く何も書かないと、もらった人が何か分からないし、若者ばかりがもらうわけではありません。高齢者の方もいると思います。ある程度の内容は裏に書くなどすればいいと思います。</p> <p>(金井委員) 実際に活動している人の体験談が一番貴重なのではないのでしょうか。それに合わせたほうがいいのではないのでしょうか。</p> <p>(大竹部会長) 私もポストカードサイズのほうがすごくスマートでいいなと思います。そのほうが持って帰りやすいし、捨てることもないのかなと思います。あとはそのデザインや、何を載せるかの工夫があったらよいのではないかということでした。今日皆さんと話したかったテーマは以上です。今までのところも含めて、これ以外に何かありますか。では、事務局へお返しします。</p> <p>(事務局説明)</p> <p>(事務局) 本日は貴重なご意見をありがとうございました。本日の議事内容は以上で終了いたしましたので、「横浜みどりアップ計画市民推進会議 第58回広報・見える化部会」を終了いたします。</p>
資 料 ・ 特記事項	<p>次第</p> <p>資料 1 市民目線での情報提供のあり方について</p>